

81
会報

郷音

発行所 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11

TEL 03-69907-2253
FAX 03-69907-2915

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11

第四十四回 聴覚障害児を育てた

お母さんをたたえる会

お祝いのことは

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会会長

山東 昭子



今回、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、憲政記念館で行われている「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」の記念式典は、今年も残念ながら開催を見送らせていた

だきました。

しかし、秋篠宮佳子内親王殿下から、お母様方お父様方へのあたたかい言葉を賜り、大変光栄に存じます。表彰に当たっては、受賞者それぞれの推薦される経緯を記した書類も読ませていただいております。その文面から、お子様の養育に工夫し子どもにとって必要なことを与えていくお母様の姿や、PTA活動に力を注ぎ学校の教育環境を側面から支えてくださった姿には頭が下がります。私には厳しくも慈愛に満ちた母の姿が臉に浮かびます。立派に成長した我が子とともに、これまで協力してくれた家族や関係する全ての皆様に見せたい姿です。誇りを持って胸をはるお母様の姿の、なんと神々しいことでしょう。今回はお父様の表彰が複数いらっしゃいます。色んな事情で、父親の立場で育ててこられた方々も尊い存在であります。受賞されるお母様方、この度の榮譽、誠におめでと

うございます！コロナなんか絶対に負けず、健康に過ごしてください。

最後となりましたが、文部科学省、厚生労働省、東京都教育委員会、全国聾学校長会、全国ろう学校PTA連合会による御後援に、改めて厚く御礼申し上げますとともに、なお一層の御支援をお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

佳子内親王殿下のおことば



このたび、「第四十四回聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」にお祝いの言葉をお送りできますことを、大変嬉しく思います。

本会の表彰を受けられるお母様、お父様は、嬉しいことも、また大変なこともある中で、お子様との信頼関係を大切にされながら、お子様に寄り添ってこられたことでしょう。お子様が安心して成長できるよう、心を配り、工夫を重ね、喜びも悲しみも分かち合って、ともに歩んでこられたと想像しております。

様々な経験を積み重ね成長していく中で、お子様にとって皆様の存在は、とても心強かったと思います。ご家族とともに過ごしたかけがえのない時間と思いは、お子様を生産にわたって支え続けることでしょう。また、皆様のご経験に接して励まされた方々もいらっしゃると思います。長年にわたるご努力に、心から敬意を表します。

例年この会で金賞受賞者の表彰が行われてきた「全国聾学校作文コンクール」は、昨年は中止になりました

たが、今年は実施されました。一年ぶりの実施を嬉しく思いながら、すべての受賞作を読みました。それぞれの作者が経験したことや、感じたこと、考えたことが伝わってきて、一つ一つの作品が心に残っています。お子様の幸せを願い育ててこられたお母様、お父様や、思いのこもった作文を書かれた皆様が表彰されることを大変嬉しく思います。ご家族やまわりの方々も喜んでいらっしゃるでしょう。この会のために尽力された方々に深く敬意を表しますとともに、受賞される皆様お一人お一人に、改めて心からお祝いを申し上げます。

〇〇お母さんの体験発表〇〇

千葉県 森 みどり



三人兄弟の末っ子として生まれた聞こえない娘の子育ては、今振り返ると幸運に恵まれてスタートしたと思います。90dBを超える難聴と診断された頃、偶々長男の同級生のお母さんに聞こえない人がいたのです。娘の事を打ち明けると、心配ない大丈夫と笑顔で大いに励まされ、将来彼女の様になるなら確かに大丈夫だろうと思えました。「口話は大事だけど、口話だけではわかったつもりのおぼんやりした世界。本当の意味で物事が分かる様に、手話も口話も両方頑張る」とアドバイスを貰い、それが聞こえない娘を育てる原点となりました。

調べてみてわかったのは、殆どの聞こえない大人は手話が必要だと言っているのに、ろう学校では口話で言葉の勉強をしている事。ならば家庭では手話と口話を併用しようと考え、補聴器装用とほぼ同時の一歳過ぎから娘との会話に手話を使い始めました。習いたての私の拙い手話を見て、娘はどんどん覚えてくれました。小さな可愛い手で手話を表すと同時に声でのお喋りも増えました。手話をやるとお話しが下手になると言われた時代でしたので、当初は恐る恐る娘の様子を

観察しながらでした。でも下手になる兆候は現れず、手話でわかる事は口話でもわかる様に、その逆も然り、それだけ気を付けて過ごしました。

幼稚園からは筑波大学附属聾学校に入り、聴覚口話法による徹底指導を受けました。幼稚園二年生の頃、授業中何度繰り返し返しても先生の質問の意味が分からず困った娘は、先生が他の子を見ている隙に後ろに座る私を振り返り、私はすかさず手話で「○○って聞いているんだよ。」と伝え、すると娘は一発で理解して、再び先生が娘を見て質問した時にはちゃんと声で答えられたという出来事がありました。聞いて話せる様にもなっただけで、先ずは理解する事が大切だと痛感し、それからの私は手話と口話の相乗効果で日本語の力を高めたいとはつきり意識する様になりました。

その後の小学部時代は、私にとっても楽しい思い出に溢れています。毎日書く日記、それに対する先生のコメントや質問を母で心待ちにしていました。娘は季節ごとの行事をとて楽しみにして、マラソン大会頑張るよ、お正月の書き初め頑張るよ、卒業生を送る会の劇を頑張るよ等々日記に認め、頑張る事が一杯あつて忙しいねえと家族で笑い合ったものです。その頃は娘を手話サークルの行事に連れて行ったりデフファミリーの同級生と家族ぐるみで遊びに出掛けたり、手話の環境と成人ろう者と触れ合う機会も積極的に行いました。

一方で、聞こえない娘の言動に慣れ切った私に長女が大変厳しく、妹に対してそんな事では世の中通用しない、耳のせいにしていないけれど単なる我儘・身勝手ではないかと度々強く指摘していました。娘が一般社会で円滑な人間関係を築く為に、聞こえる人の文化を意識的に伝えていく必要があると気付いたのは、そうした長女の率直な指摘のお陰です。

小学部高学年頃から家庭では、日常の様々な出来事について、また聞こえる人同士の会話について、目に見えた事・聞こえた事の向こうにどんな思いや事情があるかを伝えようと努めました。例えば窓の開いた部屋にいて「寒くない？」と聞かれたら、そこには「寒ければ、窓を閉めますよ。」とか「私は寒いので、窓を閉めてもいいかしら？」など心の話が含まれていると

いう具合です。年齢と共に話は長く複雑になりましたが、説明と話し合いを繰り返しました。

その様に過ごす中で身に沁みしたのは、どんなに本人が努力し補聴技術が進歩しても、聞こえに對する不全感を完全には解消できず、それを払拭する為に必要なのは手話と聞こえない仲間との存在という事でした。言語が思考やコミュニケーションの道具とすれば、娘には道具に拘らず手話でも音声語でも使えるものは何でも使つて、より豊かに人生を謳歌してほしいと願う様になりました。

十五年間お世話になった懐かしい附属聾学校を巣立ち、立教大学文学部日本文学科に進学した娘は、お陰様で多くの友人に恵まれました。共に充実した学生生活を送り、卒業後は民間企業に就職、総合職として間もなく六年目を迎えます。娘は、聞こえる人とは音声語で話し、それが一番ストレスなく楽だと言っていますが、デフコミュニティではバリバリの手話話者です。仕事に遊びに忙しく楽しく過ごしている様で、親は遠くから見守るのみとなりました。この様な日々を迎えられたのは、ご縁を頂き時々に励まし導いて下さった先生方、様々な助言をしてくれた聞こえない方々のお陰に他なりません。ここに改めて深く感謝申し上げますと共に、これから育ちゆく聞こえない子とご家族が健やかである事を心より願っております。

●第四十四回聴覚障害児を育てた

お母さんをたたえる会受賞者

- 1、北海道 表彰者 七名
船山大介様 松澤弘美様 並木英子様
- 2、青森県 表彰者 一名
山本亜紀様 加我安和様 江良絢香様 今野聡美様
- 3、岩手県 表彰者 五名
三上有美様
- 4、群馬県 表彰者 三名
高村弓子様 菅原純子様 松森義彦様
多田美和様 菊池 幸様
- 5、茨城県 表彰者 二名
矢口くるみ様 櫻井明美様 茂木佳奈子様

- 6、清水美恵子様 角田正子様
埼玉県 表彰者 二名
- 7、篠崎千恵様 長谷川麻子様
千葉県 表彰者 七名
- 8、中川由美子様 柳本廣子様 村上美智様
白崎晴香様 窄野敬子様 森みどり様 鈴木理子様
東京都 表彰者 一名
- 9、松崎めぐみ様
山梨県 表彰者 一名
- 10、風間まゆみ様
長野県 表彰者 五名
- 11、寺島千鶴様 五明咲子様 吉池正枝様
酒井知美様 菊池佳子様
愛知県 表彰者 一名
- 12、上野美志様
兵庫県 表彰者 一名
- 13、古岡京子様
鹿児島県 表彰者 一名
- 鳥越美香子様

●第三十三回全国聾学校合奏コンクール審査結果

金賞・文部科学大臣賞

東京都立大塚ろう学校 小学部六年
ミュージカル「オペラ座の怪人」より

銀賞

東京都立大塚ろう学校 小学部五年
「麒麟がくる」よりプロローグ・メインテーマ

銅賞

東京都立立川ろう学校 小学部五年
「生命の息吹」
東京都立立川ろう学校 小学部六年
「いのちの歌」

努力賞

福島県立聴覚支援学校 小学部五・六年
「威風堂々」

福島県立聴覚支援学校 中学部三年
「カノン進行メドレー」キセキ・さくら（独唱）

東京都立中央ろう学校 高等部一年

〔Departure〕

長野県長野ろう学校 中学部

〔絆〜2021希望〜〕

京都府立聾学校 中学部三年

「アイネクライネ（米津玄師作曲）」

審査員奨励賞

福島県立聴覚支援学校会津校 小学部

〔炎〕

静岡県立静岡聴覚特別支援学校 中学部

〔地響〕

全国聾学校合奏コンクール第二次審査総評

審査委員長 尾崎正峰



新型コロナウイルスの猛威がいったん鎮まったかに思われたのも束の間、オミクロン株による再度の感染拡大が懸念されるなど落ち着かない中、第一次審査を通過した十一グループすべてが第二次審査に参加されたことは何よりも喜ばしいことです。毎日、油断ができない厳しい状況において、第二次審査に向けての日々の中にはさまざまな苦労があったと推察されますが、生徒さんたちのがんばりはもちろんのこと、一人ひとりに目配りをした先生方のご指導、それを支える保護者、関係者の方々、そうした思いと営みが詰まった演奏であり、誰もが丁寧な音楽作りを心がけていることが映像から伝わってきました。

すべてのグループが第一次審査から演奏レベルを向上させる中で、金賞・文部科学大臣賞を獲得した東京都立大塚ろう学校小学部六年グループによる『オペラ座の怪人』（セレクション）の演奏は、テンポ、リズム、曲想の変化が見事であり、ニュアンス豊かな表現にあふれるものでした。そして、同グループに負けず劣らず、

他の学校・グループの演奏にも瞠目に値するものが多くあり、全般的に演奏のレベルが高かったことは特筆すべき点です。そのため、最終選考にあたって例年以上に時間をかけ議論を重ねるようになりましたが、それは審査委員会としてうれしい悩みでありました。昨年二月にご逝去された、最初期からの審査委員長として本コンクールの礎を築かれた作曲家の尾高惇忠先生。

三月に急逝された、長く本コンクールを事務的に支えていただいた櫻井博先生。両先生が今回の各校・各グループの演奏を聴かれたならば、驚かれると共にたいへん喜ばれるのではないかと思いますもの



新型コロナウイルスの脅威がいつなくなるのかは誰にも

予測することはできませんが、どんな状況にあっても、音楽を奏でる喜びを感じ取ること、音楽を通して自分（たち）らしさを表現しようとする、そのプロセスをみんなと共に行うこと。そうした価値こそ、本コンクールがもつとも大事にしたいと考えているものです。今回は参加がかなわなかった学校・グループも含めて、あらためて来年度のコンクールへの想いをはぐぐんでいただくことを審査委員一同願っています。

全国聾学校合奏コンクール

第三十四回全国聾学校合奏コンクール表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大のため表彰式としては実施できませんでしたが、令和四年三月三日（金）に、東京都立大塚ろう学校に協会が賞状等を直接届け、今井絵理子理事から賞状を授与していただきました。

ハマナス募金

当協会が実施しております事業は、公益財団法人J

KA様より公益資金の補助をはじめ皆様方からの皆様方からのご寄附（ハマナス募金）により実施しています。皆様方のご理解とご支援に深く感謝いたしております。

今年度も計画事業の適正な実施に努めているところでございますが、昨今の社会情勢から事業資金の確保が大変厳しい状況にあります。つきましては、皆様方より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ハマナス募金のお振込みは、郵便振替もしくは銀行振込にてお願いいたします。

郵便振替口座 00110・9・134877

名義 聴覚障害者教育福祉協会

銀行振込 みずほ銀行江戸川橋支店

普通口座 1615748

名義 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

会長 山東昭子

当協会は、平成二十九年三月三十日内閣府（内閣総理大臣）より税額控除に係る証明を受理しており、この度令和四年三月三十日から令和九年三月二十九日までの有効期間の延長が認められました。

令和三年十月一日から令和四年三月末日までの間に、次の皆様方よりご寄附をお寄せいただきました。誠に有難うございました。

（敬称略）

谷口昭子、谷口昭子、倉田正雄、齋藤佐和、野口敦子、谷口昭子、草薙進郎、山下由枝、藤本登、谷口昭子、佐藤和子、天野光章、谷口昭子、山本博美、谷口昭子、仲田邦男

令和三年度

公益財団法人JKA競輪公益資金による

補助事業実施報告

一、事業名

令和三年度障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業

二、事業実施内容

デジタル補聴援助システムの購入

・無償貸与

送信機（ロジヤータッチスクリーンマイク）

受信機（ロジヤータッチスクリーンマイク）十三セット

全国聾学校・聴覚特別支援学校、小学校、中学校、難聴幼児通園施設に在籍、在園する幼児・児童・生徒の家庭に貸与した。

令和三年度
聴覚障害教育振興奨励賞受賞校について
聴覚障害教育振興奨励会

トピックス

令和三年度

聴覚障害教育振興奨励賞受賞校について

聴覚障害教育振興奨励会

庶務 鈴木 茂樹

去る二月十九日の聴覚障害教育振興奨励会（会長 四日市 章）の審査会がリモートで開催され、受賞校の二校が決定した。

① 群馬県立聾学校

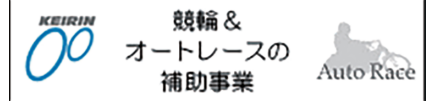
研究実践報告者 教諭 芹澤 祐実

◎研究テーマ

生徒の認知特性を踏まえた視覚教材の工夫
～記述を基に文章の内容を体系的に理解する力を育てるための国語科指導の実践を通して～

研究・実践の内容

在籍する児童生徒の障害の重度・重複化に伴い、学年相当の語彙力や理解力が十分でない実態がある。文章を正しく読み取るための工夫として、情報整理の仕方に関心を当て、学習した内容や流れを可視化できる視覚教材を作成した。具体的には、まず文章全体を一枚の長い紙に書き表して俯瞰できるようにしたこと、



必要な部分を正しく捉えさせるためにシンキングツール及び学習プリントとタブレットを合わせて使用したことである。その結果、それらの教材を手掛かりにして丁寧な説明するなど生徒に変容が見られた。生徒の実態に基づいて論証しており説得力のある展開になっている。習熟度の異なる生徒の指導は他校においても大変参考になるものである。

② 東京都立立川ろう学校

研究実践報告者 教諭 庄崎 真紀

◎研究テーマ

「主體的・対話的で深い学び」のある設定活動とは
～幼児が主體的に学び、心を動かし、言葉をも身に付けるための環境設定の工夫～

研究・実践の内容

幼児は手話中心に友達とやり取りしているが、理解の深さや伝わり方は話す相手や内容により異なり、言語習得の実態や課題も様々である。表現活動や集団ゲームは、どの幼児も好きで楽しんで取り組んでいるが、友達とのやり取りの際には教師の橋渡しが必要である。「主體的・対話的で深い学び」の実現には、話し合い活動と表現活動が必要であると考え、幼児の課題から題材選びや活動内容、手立てを考えた。その際、幼児主体の話し合い活動であること、表現活動が対話的であること、言葉の習得のための働きかけに留意した。本実践記録は、幼児の活動における重要な点を的確に示しており、他校が設定活動を行う時のモデルになるものである。

慶弔

○春の叙勲

前協会理事 故櫻井 博氏 瑞宝小綬章受章

※ おめでとうございます。

編集後記

会報「響き」八十一号をお届けします。主に令和三年度後半の事業についてお伝えします。

年度の前半で開催する全国聾学校絵画展や全国聾学校作文コンクール、読字力検定試験の第一回は、一年ぶりに何とか開催に漕ぎ着けました。新型コロナウイルスに負けず取り組んでくださった全国の聴覚生涯教育に関わる保護者、指導者の皆様感染拡大の中ありがとうございました。

その後の開催である「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」は、多くの人が一堂に会するのは避けた方がよいということで、今年もまた式典・発表会は実施せず、表彰楯とリーフレットの寄贈のみ行いました。全国から三十七名のお母さん方の推薦があり表彰されました。

全国聾学校合奏コンクールについては、ほぼ予定通りに審査も進み開催することができました。合奏コンクールの金賞は都立大塚ろう学校が受賞しました。二年連続の受賞でした。おめでとうございます。

二〇二二年年度の協会の事業においては、「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」をはじめとして例年通りの事業を実施する予定です。全国の聾学校、関係機関、関係団体等のご理解ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。